

令和 7 年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づき、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

令和 7 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等を実施しました。また、春の企画展として「シルク博物館新収蔵品展」を、秋は特別展「第 28 回全国染織作品展」を開催しました。

このほか、博物館展示室内の空調設備を一部更新しました。

（1） 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。特に、染織作品や錦絵等は資料保存と公開のバランスを図りつつ、適宜展示替えをしながら紹介しています。また、日本の復元時代風俗衣装人形のうち、4 体の着替えを実施しました。

イ 春の企画展

「シルク博物館新収蔵品展」

〔会 期〕 令和 7 年 4 月 26 日（土）～ 6 月 8 日（日）

令和 2 年（2020）からの 5 年間に新たに収蔵した資料約 100 点を展示公開しました。寄贈された木版染めの小山保家・哲男の作品、昭和の花嫁衣装等や、購入した横浜とシルクの歴史を伝える錦絵や文献資料をはじめ、既存のコレクションである佐賀錦の人間国宝 古賀フミや刺繍の永山登志子の関連資料等も展示しました。また、会期中に着物の試着体験を実施し、好評でした。

ウ 秋の特別展

「第 28 回全国染織作品展」

〔会 期〕 令和 7 年 10 月 25 日（土）～ 11 月 29 日（土）

当館では、絹の需要促進や服飾文化の発展に貢献するため、昭和 45 年より「全国染織作品展」を開催し、今回で 28 回目を迎えました。本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ、入選となった作品を一堂に展覧することで、染織作家の研鑽の成果を表彰し、今後の制作活動の一助としました。

（2） 教育普及事業

ア 「チャレンジ！かいこプログラム」

（ア） 蚕種配布

a 学校対象

〔期 間〕 令和 7 年 5 月 15 日（木）～ 5 月 17 日（土）

県内の小学校等を中心に、蚕の卵（蚕種）や人工飼料を有償頒布しました。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講しました。

b 個人対象

〔期 間〕 令和 7 年 7 月 18 日（金）～ 7 月 20 日（日）

個人向けに蚕種を有償頒布しました。昨年度に引き続き、全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2025」の対象イベントとしました。

(イ) 「かいこ教室」

〔期 間〕 令和7年7月26日(土)～ 8月10日(日)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種8種・野蚕（ヤマユガ）等の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

〔期 間〕 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作り、ハンカチ染め体験のほか、生きた蚕の観察とシルクについての勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

〔期 間〕 令和7年12月16日(火)～令和8年1月25日(日)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、手紬糸作り実演、スカーフ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 外部講師による講演会

「シルクが切り拓く未来材料の新たな可能性」

〔開催日〕 令和8年3月1日(日)

国内での絹の需要が激減し、シルク産業の存続に危機が訪れているといわれる現状の中で、今後シルクがどのような可能性を持ち、どのような役割を果たしていくのか、新たなシルクの利用法や最新の研究成果について、第一線の専門家を招いて学びました。

エ 博物館実習生の受入れ

〔期 間〕 令和7年7月23日(水)～ 8月11日(月・振替休日)

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、9名の学生を受け入れ、講義と教育普及事業の実践（蚕の飼育も含む）などの実習を行いました。

オ 中学生企業訪問の受入れ

〔実施日〕 令和7年10月1日(水)

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校の2年生9名を受け入れ、財団と博物館の業務、博物館学芸員の仕事などについて解説しました。

(3) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2025」

〔期 間〕 令和7年7月18日(金)～7月20日(日)※個人向け蚕種配布
一般財団法人大日本蚕糸会と各地の蚕糸関係博物館等で実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて蚕糸業への理解を深めていただく取り組みに参加しました。

イ 横浜輸出スカーフ展示

「Yokohama Scarf Stories ― 世界の風に吹かれて―」

〔期 間〕 令和7年12月6日(土)～令和8年1月12日(月・祝)

横浜市歴史博物館及び関東学院大学と連携して、横浜スカーフアーカイブ資料の小規模な企画展示を開催しました。

ウ 「シルキークリスマス」

〔開催日〕 令和7年12月21日（日）

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

エ その他

神奈川県立歴史博物館を中心に近隣の博物館園と連携して開催する夏休み子ども向けイベント「ミュージアム・ミッション」、当財団が会員となっている「山下公園通り会」が主催する「ハマフェス」等の催しものなどに協力しました。

（４） 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ホームページやX（旧 Twitter）の積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

（５） 博物館月別入館者数（別紙）

2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、シルクの普及、販売促進活動等の支援に努めました。

（１） シルク等普及活動事業

ア 「シルキークリスマス」（再掲）

〔開催日〕 令和7年12月21日（日）

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県の伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

（２） 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

別紙 博物館月別入館者数

(単位：人)

区分 月別(開館日数)		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		一般 シニア 学生 子供	団体	計	一般 シニア 学生 子供	団体	計		
令和 7年	4月 (22日)	777	57	834	314	110	424	1,258	898
	5月 (27日)	1,507	432	1,939	195	29	224	2,163	2,950
	6月 (19日)	852	218	1,070	103	6	109	1,179	2,288
	7月 (27日)	1,241	155	1,396	97	0	97	1,493	1,487
	8月 (26日)	1,538	37	1,575	132	0	132	1,707	1,709
	9月 (22日)	774	611	1,385	114	0	114	1,499	1,689
	10月 (23日)	860	364	1,224	221	0	221	1,445	2,043
	11月 (25日)	1,463	696	2,159	207	216	423	2,582	2,966
	12月 (19日)	769	241	1,010	81	0	81	1,091	1,648
令和 8年	1月 (23日)	1,054	317	1,371	46	0	46	1,417	1,386
	2月 (23日)	759	446	1,205	77	1	78	1,283	1,206
	3月 (26日)	967	120	1,087	185	68	253	1,340	1,411
合計 (282日)		12,561	3,694	16,255	1,772	430	2,202	18,457	21,681
月平均 (24日)		1,047	308	1,355	148	36	184	1,538	1,807

()内は開館日数

Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

今年度更新したホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入館率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

部室賃貸等収入

部室賃貸料金	390,055千円
諸料金	97,277千円
計	487,332千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から65年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、空調機更新工事等の実施により、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

各階空調機更新工事	27,313千円
積算電力計更新工事	7,293千円
部室整備工事	3,938千円
汚水ポンプ更新工事	1,243千円
計	39,787千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場は引続きタイムズ 24 (株) に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫収入

車庫使用料金	9,134 千円
--------	----------

(2) 平面駐車場収入

駐車場使用料金	25,061 千円
---------	-----------